|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 施設長 | サビ管 | 世話人 | 世話人 |
| 　　 |  |  |  |

議事録（スタッフ会議）・第三回

2020年９月29日（火）

15：00～16：20

参加者：田中施設長、芳賀サビ管、江畑、丸山

高橋さんのカンファレンス

1. ９月28日（月）の事故概要
2. 概要説明（江畑）

18：50　　散策を行う為、外出（20：30帰宅予定と申告）

　　　　　　20：10頃　　しんごうに本人から自死をほのめかす内容の入電（約10分）

　　　　　　　　本人　「死にたい」「生きていても楽しくない」「なんで生まれてきたんだ」と自死を

ほのめかす内容

職員　「しんごうで話を聞くから戻ってくるよう」伝えたところ電話を切られた

　　　　　　　　　　　　　　　　　　その後、何度も架電するが繋がらず

　　　　　　　　　　　　　　　　　　希死念慮の実行も心配された

　　　　　　　　　　　　　　　　　（これまでの外出では申告の帰宅時間には戻っていた）

　　　　　　20：30　　申告であった帰宅時間を過ぎても戻って来なかった

　　　　　　　　　　　 20：40　　施設長に電話したが出なかった為、サビ管に報告

　　　　　　　　　　　 21:08　　東松山警察署に捜索相談のため架電

　　　　　　　　　　　　　　　　 施設の名前・住所や連絡先、高橋さんの生年月日、障害の病名、服装

自転車等の情報提供、希死念慮もある事を報告した

　　　　　　　　　　　 21:30 東松山警察署から警官二名が来所、職員からの事情説明を求められた

　　　　　　　　　　　 22:10 ＧＨしんごうの事情提供と現場説明の最中に、高橋さんが帰宅

　　　　　　　　　　　　　　　　　　その後、警官二名により説諭して終了

　　　　　　　　　　　　　　　　　　帰宅の時、本人は無言

　　　　　　　　　　　　　　　　　　施設内の状況が理解できない様子で、きょとんとしていた

　　　　　　　　　　　　　　　　　　20：10の連絡から帰宅（22：10）するまでの間、高橋さんからの連絡なし

 22:30　　警官から、今回の件はデータベースとするとの報告あり

　　　　　　　　　　　　　　　　　　高橋さんの写真撮影を行った

　　　　　　　　　　　 23：30頃　　職員が帰宅の声かけのため、高橋さんの部屋に寄ったら、本人の顔が

　　　　　　　　　　　　　　　　　　赤かった

　　　　　　　　　　　　　　　　　　（後日の報告で250ｍｌのビールの飲酒が判明）

1. 翌日の本人の言葉（丸山）
	* + - 翌朝、職員に「昨日、小さいのどこしビール缶（250ｍｌ）を飲んだ」と話す
			- 約束の帰宅時間20：30はわかっていた
2. 翌日施設長、東松山警察署を訪問
	* + - 昨夜の対応のお礼に伺った

その際「夜間職員がいないのはどうしてか」との質問あり

　　　　　施設の設置基準にのっとって開設許可を頂いた旨を回答

　　　　　その後、県障害福祉課から今回の件につき事故報告の提出を求められた

1. 今後の対応について
	* + - 母から主治医に相談していただき、早期に対応をとる必要がある
			- 本人の状態が、高揚したり開放的になったり活動性が増加していること、

希死念慮もあることから医療に繋げる必要がある

そのため、ご両親に事情説明の連絡を入れ、入院を進めて頂く事が適切と

思われることを伝える（本日、施設長から）

* + - * 29日の夜は施設長の家で過ごす事となった

（警察・県の懸念もあり、職員のいない状況に本人をおいておくことが出来ない）

* + - * 事故報告書は施設長が作成し、県に送付する

添付書類「アセスメント要約表」　・・・・・・・・・・・・・・・　3枚

以上